

ICTの提供による社会の持続可能性と生物多様性への貢献

統合ファイリングシステム「不備帳票対応」

富士通グループのSDGsへの取り組み

2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）は、先進国を含めた世界全体が2030年までに達成すべき共通の目標です。その目標達成に向けて、民間企業の技術やイノベーション力を積極的に役立てていくことが強く求められています。富士通グループは、かねてより、共創を通じて持続的に社会にインパクトを与える成果を生み出す、「ヒューマンセントリック・インテリジェント ソサエティ」の実現を目指して、テクノロジーを活用するとともに新たなイノベーションを創造してきました。この活動と、国際社会がSDGsの達成に向けて取り組む方向性は、一致していると認識しています。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/sdgs/>

持続可能な開発のための2030アジェンダ

「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals : SDGs)を中核とする「持続可能な開発のための2030」は、平成27(2015)年9月25日に、ニューヨーク・国連本部で開催された国連サミットで採択されました。

SDGs(Sustainable Development Goals)

2030年に向けて持続可能な開発に関する地球規模の優先課題などを明らかにした目標です。17の目標と169のターゲットで構成されています。ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals : MDGs）とは異なり、先進国を含む全ての国に適用される普遍性が最大の特徴です。

環境との関連

複雑に絡み合う社会・環境課題に対応していくためには、環境・経済・社会の3つの課題を総合的に取り組む必要があります。環境省では、17の目標のうち、気候変動、持続可能な消費と生産（循環型社会形成の取組等）等、少なくとも、12の目標が環境に関連しているとしています。

ICTによるSDGsへの貢献

富士通グループは、クラウドシステム、モバイルコンピューティング、電子政府など、様々なICTの提供を通じて、国内外のお客様とともに、SDGsへ貢献してまいります。



「環境貢献ソリューション」認定制度のご紹介

富士通は、富士通グループが提供するソリューション・サービスの導入によるGHG排出量の削減効果を定量評価し、削減効果が15%を上回る商品やサービスを「環境貢献ソリューション」として認定してきました。現在もGHG排出量の削減効果を算定し毎年報告しています。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/sustainability-contribution-list/>



統合ファイリングシステム(ImageIntegrator)

- 統合ファイリングシステムは、イメージ統合基盤「ImageIntegrator」パッケージに搭載された機能のひとつで、e-文書法の要件に対応できるファイリング向けの電子文書管理システムです。保険加入の際の保険申込書と必要書類（車検証や本人確認書類など）を確認し、保管するという紙を中心とした業務プロセスから電子イメージによる業務プロセスに改善します。「不備帳票対応」では、記載漏れや誤りがある帳票についても電子イメージ化して登録し、代理店や営業担当者の訂正にかかる処理スピードの向上を図ったことによる業務効率化（処理時間の短縮）をCO₂排出量として評価しました。

「環境貢献ソリューション」の提供により、SDGsへ貢献します。

- 「環境貢献ソリューション」の取り組みは、目標13：気候変動へのアクション（気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。）への対応として、推進しています。富士通グループは、「環境貢献ソリューション」の提供を拡大し、SDGsに貢献します。



統合ファイリングシステム「不備帳票対応」による業務の効率化と環境負荷の低減

システム概要

統合ファイリングシステム「不備帳票対応」を導入することで、代理店や営業担当者の事務処理の軽減と業務効率化を実現します。従来、記載漏れや誤りなどの不備がある帳票（保険申込書など）については、ファイリングセンタで帳票を電子イメージ化して登録せずに、受付元の代理店や営業店に帳票を返送し、訂正後に再登録を行ってしまいましたが、「不備帳票対応」では、不備がある帳票も電子イメージ化して登録し、代理店や営業店から端末を利用して電子イメージ化された帳票を検索・抽出して訂正することが可能になりました。

これにより、従来、代理店や営業担当者が返送された不備帳票そのものを手作業で訂正していた作業を、事務処理端末から電子イメージ化して登録された不備帳票を取り出して訂正を行えるようになったことで、訂正業務の処理時間が短縮され、事務処理の軽減が図れます。

この対応により、不備帳票の訂正にかかる処理スピードが向上し、代理店や営業担当者の業務効率化が図れます。また、不備帳票の搬送（物流）に伴う情報漏洩リスクや紛失リスクが大幅に低減できます。

効果

・ CO₂排出量の削減効果：約50% ※富士通フロンテック試算

訂正業務の処理時間の短縮

損害保険申込書の平均登録業務量は、30万枚/日であり、不備がある帳票は3,000枚/日（約1%）

訂正業務の処理時間

【導入前】不備帳票1枚あたり、20分程度（紙媒体を手作業で訂正）

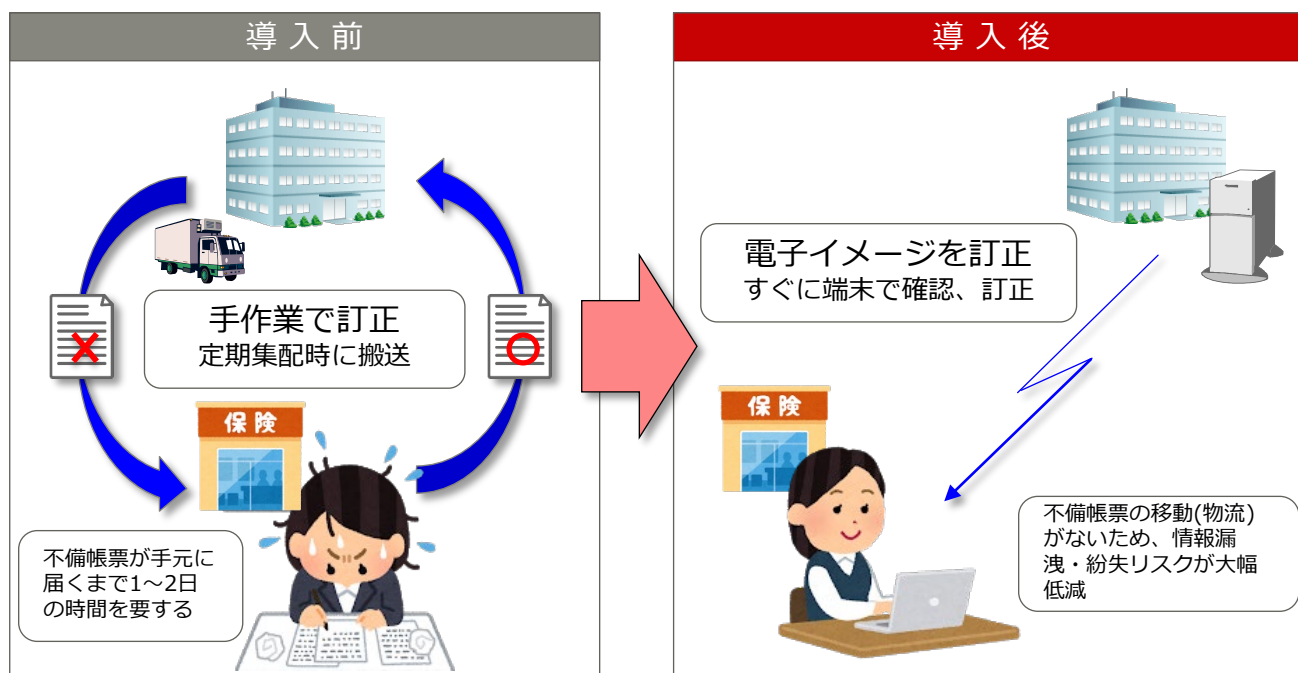
【導入後】不備帳票1枚あたり、5分程度に短縮（電子イメージを端末で訂正）

※上記の効果は、現時点で富士通フロンテックが試算したものであり、お客さまの運用状況などにより結果が異なることを予めご承知おきください。

統合ファイリングシステム「不備帳票対応」の導入によって、何故、事務手続きがスピードアップするのか？

以下の時間が短縮されます。

- ① 不備帳票が返送されませんので、代理店や営業担当者が訂正業務を開始するまでの待ち時間が短縮されます。
- ② 不備帳票の訂正業務は、システムに登録された電子イメージで行いますので、開始から完了までの処理時間が大幅に短縮されます。



お問い合わせ先

富士通フロンテック株式会社

ファイナンス&リテール事業本部 第三ソリューション事業部

Webによるお問い合わせ：<https://www.fujitsu.com/jp/group/frontech/contact/>